

12月30日のウクライナ情報

安齋育郎

●戦闘はこう着状態に ウクライナ情報総局長、BBC に話す(2022年12月29日)

ウクライナでの戦闘は現在、ウクライナとロシアのどちらも大きく前進できずにいる膠着(こうちゃく)状態にあると、ウクライナ国防省のキリロ・ブダノフ情報総局長は BBC の取材で話した。この間、ウクライナ政府は西側各国からの先端兵器の提供を待っているところだという。

「にっちもさっちもいかない状態だ。まるで動かない」と、ブダノフ少将は話した。

ウクライナ軍が11月に南部の州都ヘルソンを奪還して以降、最も激しい戦闘は東部ドネツク州のバフムート周辺で行われてきた。それ以外の場所では、ロシア軍はもっぱら防戦態勢をとっている様子だ。その一方、全長1000キロにわたる前線においてウクライナ軍の地上部隊の動きは、冬の寒さの影響でペースを落としている。

ブダノフ局長は、かなりの被害を受けたロシア軍は「今では完全に行き止まり状態」にあると指摘。ロシア政府は今後さらに徴集兵の動員を発表すると決めたようだと話した。しかしそれでもウクライナ軍は今も、複数の場所で進軍するための物資が不足していると、局長は付け足した。

「全方位で徹底的に相手を倒すことができない。それは向こうも同じだ」とブダノフ氏は言い、「新しい兵器の供給に大いに期待している。これまでより進んだ先端兵器の到着も期待している」と強調した。

ロシア軍の後退が各地で続いた後、ウクライナ政府は今年15日になって、ロシアが早ければ新年にもベラルーシを出発点に大規模な地上攻勢を実施しようと、計画を進めていると警告した。ロシア軍は国内で訓練中の数万人の予備役兵を投入し、再び首都キーウ制圧を目指す可能性もあると、ウクライナは見ている。

しかしブダノフ局長は、ベラルーシでのロシア軍の活動は陽動作戦に過ぎないと一蹴した。数千の兵をベラルーシへ向かわせているのも、ウクライナが南や東に配備している部隊を、北に移動させようとしてのことだという。

最近では、ロシア兵を大勢乗せた列車がベラルーシ-ウクライナ国境の近くまで来て停車し、数時間後に全員を乗せたまま、戻っていったのだという。

「しかも(ロシアは)それを白昼堂々やってみせた。見たくなくても誰もが目にするように」と、ブダノフ氏は述べ、ベラルーシにいる部隊が実際の切迫した脅威だとは思っていないと話した。

「ベラルーシ方面からキーウや国の北部を侵略しようと準備している様子は、現時点では見えない」ブダノフ局長の取材は、照明を落としてあるキーウの局長室で行われた。ロシアのウラジーミル・プーチン大統領が3年以上で初めてベラルーシの首都ミンスクを訪問した、数日後のことだ。プーチン氏は異例のミンスク訪問によって、長年の盟友でもあるベラルーシのアレクサンドル・ルカシェンコ大統領を説得して、ベラルーシ軍のウクライナ派遣を求めようとしたのではないかと、憶測が飛び交った。

ロシア軍はこれまでベラルーシ領を攻撃の起点にしてきた。しかし、ベラルーシ社会はこれ以上の戦争への関与を支持しないだろうと、ブダノフ氏は考えている。加えて、4万8000人強のベラルーシ軍の戦闘能力についても、専門家は疑問視している。

「だからこそルカシェンコ大統領は、自国にとっての大惨事を避けるため、あらゆる手を尽くしている」のだと、ブダノフ氏は述べた。

ヘルソンを奪還して以来、ウクライナ軍は東部バフムートでロシア軍と熾烈(しれつ)な戦いを続けて

きた。塹壕(ざんごう)を足掛かりにするその戦い方は、まるで第 1 次世界大戦のようだとも言われている。

ロシアにとっては、バフムートを奪えばウクライナの補給線を寸断することができる。加えて、クラマトルスクやストヴィアンスクなどウクライナが抑える東部の重要地点へ向かって、進軍ルートが開ける。

ロシアのバフムート攻略作戦を率いているのは、ロシアの雇い兵会社「ワグネル」の戦闘員だとブダノフ氏は述べた。「ワグネル」の創設者エフゲニー・プリゴジン氏は、ロシア政府内の権力争いで有利になるため、バフムートを自らの政治的な獲物にしたいと考えているのだと言われている。

戦場以外では、ロシア軍は 10 月半ば以来、徹底的な空からの攻撃を続けている。ミサイルやドローンを駆使してウクライナの重要インフラをたたいてきた。そのためウクライナでは数百万人が電気や暖房や水道が使えない状態にある。

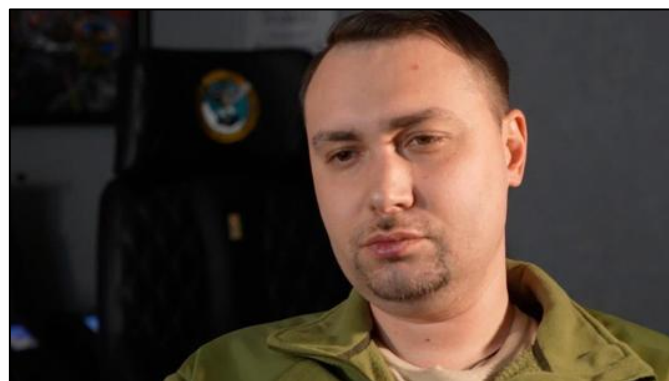
ブダノフ氏は、ロシアのこうした攻撃は今後も続くだろうが、これまでの頻度でいつまでも維持することはできないだろうと指摘する。ロシアが持つミサイルの備蓄は減少しつつあるし、ロシアは自前でミサイルを製造して補うことができないからだ。

ロシアが使う攻撃用ドローンのほとんどはイランから提供されたものだが、イランはこれまでミサイル供給については断り続けてきたのだと、ブダノフ氏は指摘する。核開発を理由にただでさえ厳しい西側の制裁を受け続けるイラン政府は、ロシアにミサイルを提供しようものなら、西側の追加制裁を受けるのは必至だと承知しているからだ。

戦争は今も膠着しているかもしれない。しかし、究極的には、占領下にあるすべてのウクライナ領をいずれ絶対に奪還するのは確実だと、ブダノフ局長は強調する。回復するウクライナ領には、2014 年にロシアが併合したクリミア半島も含まれるという。

ブダノフ局長は、ウクライナの国境はいずれ 1991 年の状態に戻ると予測する。つまり、ソヴィエト連邦の崩壊に伴い独立を宣言した時点の国土を、ウクライナは回復することになると。

(追加取材：ハナ・ツィバ、ロビー・ライト)



●ロシア、セルビア支持もコソボ不安定化煽らず＝大統領報道官(2022年12月28日)

【モスクワ 28日 ロイター】 - ロシア大統領府のペスコフ報道官は28日、コソボ北部の少数派セルビア系住民を支援するセルビアをロシアは支持しているとしながらも、ロシアがバルカン半島全体に混乱をもたらそうと緊張を煽っているとの非難は否定した。

コソボのスペクラ内相は27日、道路を封鎖して抗議活動を繰り広げている北部の少数派セルビア系住民を、ロシアの影響を受けているセルビアが支援し、不安定化を図ろうと狙っていると非難した。

これについてペスコフ報道官は「セルビアは主権国家であり、ロシアの影響力を受けていると考えるのは完全に誤っている」とした上で、「こうした困難な状況下でセルビア系住民の権利を保護し、権利

が侵害された場合は厳しく反応する」と述べた。

その上で「ロシアはセルビアと極めて密接な同盟関係にあり、歴史的、精神的なつながりを持っているため、セルビア系住民の権利がどのように尊重されているか、緊密に注視している」とし、「ロシアはセルビアを支持している」と述べた。



●ステパノフ駐カナダ・ロシア大使の弁(2022年12月28日)

ロシアが提唱したナチズム糾弾決議に反対したドイツと日本は、国連安保理の常任理事国の席を得るべきではない、と述べ、両国の立場を「明白な親ナチス」と表現し「米国に占領された」国々を非難した。



●ドンバスの真実がヨーロッパに伝わりつつあります(2022年12月28日)

「ドンバス 2014-2022. 目撃証言」は、イタリア、フランス、ポルトガルの独立したジャーナリストによってリスボンで開催されました。

議題には、ロシアの軍事作戦のずっと前に、ウクライナによるミンスク協定の違反、ドネツクの住宅地を砲撃するための西側の武器の使用、および西側のメディア検閲などの「禁じられた主題」がありました。

参加者の多くは、上記のすべての直接の経験を共有しました。

例えば、フランス人ジャーナリストのクリステル・ネアンは最前線にいて、民間人に対するUAの砲撃を受けてきました。

ウクライナ当局の一部の支持者は、会議の入り口で抗議行動を起こしましたが、圧力にもかかわらず、イベントは進行しました。

<https://twitter.com/i/status/1608105457008381952>



●ウクライナで戦っているアメリカの民間軍事会社モーツアルトの創業者談(2022年12月28日)

「ウクライナは、くそつたれの人々によって運営されている腐敗した、めちゃくちゃな社会です。ウクライナの兵士は降伏した男を殺し、残虐行為を犯します。」

<https://twitter.com/i/status/1608107632119906304>

※あるツイッターの弁:それだけよく分かってるならウクライナに協力するのやめろ!



●ウソはばれる(2022年12月28日)

ウクライナの国会議員:「これはロシアの砲撃から生き延びた 8 歳のマーク君の写真です」

一番悲しいことウクライナにはもう「子ども」がいません。非常に大人びた、むしろ老いた目の小さな人間しかいません。大して生きていないのに人生に疲れています。写真:マーク、8歳、ロシアの砲撃を生き延びたばかり。

The saddest part: there are no children in #Ukraine anymore. Only little humans with very grown up eyes, old even. Somewhat tired of a life yet un-lived. Pictured: Marc, 8 yo, just survived a #russia artillery attack



ひどく低劣なウソの付き方ですね。
この写真は2013年に出版されたクリスチナ・マッケナの『忘れられた男』の表紙にあった写真じゃないですか？

Memes R Us 2 @HolyFukcm... 10時間
返信先: @lesiasylenko さん
Rubbish. That's a book cover photo.



Christina McKenna
El hombre en el olvido (Spanish Edition)
Spanish Edition
★★★★☆ (245)

Kindle Hardcover

Social Media Freed the Wo... 9時間
Bruh, good sleuthing. Now we need to report her for copyright infringement.

著者に著作権侵害を教えてやらなくちゃ

※安齋注:クリスティーナ・マッケンナの『忘れられた男』=ジェームズは、妹とともに養子縁組センターに捨てられた子どもで、妹はセンターに来てすぐに死亡した。そこで、ジェームズは個性を失い、「86」という数字になった。レイプ、飢餓、拷問に苦しんだが、ある農家の家族が彼を養子にすることにした。これは、読者が言葉を失うような、いくつもの紆余曲折を経た物語の始まりである。人間の憧れを的確に描いた探求小説。読者の心を動かす物語に、ドラマとユーモアが散りばめられており、何十万人もの読者を魅了した小説だ。

※読者感想1:アイルランドの孤児院や社会の残酷さ、そしてその子供たちが大人になってからどうなるのかが語られていて、とてもハードな内容になっています。この本は、冒頭からあなたを夢中にさせる、とても美しい物語です。

※読者感想2:記事の書き方がとてもよかったです。言葉もシンプルで読みやすい。登場人物は架空の人物ですが、愛情に欠けた不幸な子供時代を過ごしたという事実が、その人の人生にどのような影響を与えるかを知ることができるのです。この孤児院での生活が、現実の多くの子どもたちと同じように、あるいは多くの共通点をもって、ごく簡単に起こったのだと思うと、特に感慨深いものがあります。この本は数年前にすでに読んでいて、懐かしく思い出していたのです。だから、見た瞬間に我慢できずにまた買ってしまいました。

●影のエリート、ナビウリナとグレフがプーチンの経済活動を保証、ロシア経済を救う (ドイツ“Die Welt”, 2022年12月27日)

ロシア経済は予想以上に西側の制裁に抵抗に成功している。これは商品価格上昇だけでなく「理想的な」経済的機会を与えられた2つの社会グループの活動によっても説明されている。今春、ロシア中央銀行のナビウリナは進んでもう一期、総裁をと下院に提案した。プーチンの懐刀が、ロシア済を多面的に救済している

※注:エリヴィラ・ナビウリナ=1963年生まれ、59歳。モスクワ大学、イェール大学卒業の経済学者。経済開発貿易相、経済開発相、大統領補佐官を経て、現在、ロシア連邦中央銀行総裁。

<http://eritokyo.jp/independent/Ukraines-war-situation-aow2254.htm>

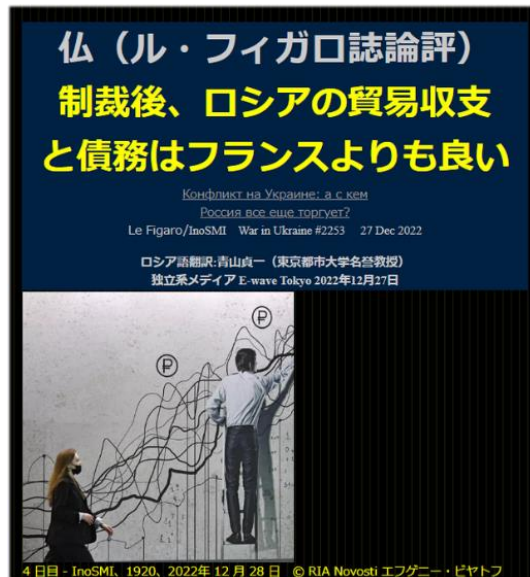


※投稿者コメント:端的に言えば、欧米など西側は、エリヴィラ・ナビウリナさん一人にロシア制裁の多くを失敗にされ、露経済は堅調にさえなっている。彼女はプーチンのまさに経済分野の懐刀であり、ロシア下院の信頼も厚い。こんな能力と信念をもったスーパーウーマン、歴史上みたことがない！

●制裁後のロシアの貿易収支と債務(2022年12月28日)

※投稿者コメント:フランスの主要紙が「制裁後、ロシアの貿易収支と債務はフランスよりも良い」と公然と評価している。フランスだけでなくドイツなどよりもはるかに良いはずだ。これも先のナビウリナ女子の助言あってのものと思える。ウクライナ紛争で西側諸国は軍事だけでなく経済でも負けている。

<http://eritokyo.jp/independent/Ukraines-war-situation-aow2254.htm>



●フランスは戦後に戻りつつある？(2022年12月28日)

“France3”は「インフレの犠牲者」が未払い請求から逃れるために薪ストーブに切り替えていると報じた。エネルギー価格が1年で20%近くも高騰し、月100~200ユーロの手当では出るものの、低所得者は最新の暖房器具を購入できない為、年金生活者には選択の余地がないという。

アンドレと彼の妻は、月々1,700ユーロ(約24万円)の年金を受け取っている。(日本とは段違いの金額! しかも月々)

薪に変えることで、月に100ユーロ以上の節約になるそうだ。「昨冬はガス代に200ユーロも払ったんだよ」とアンドレは言う。フランス政府は、薪で暖房する人への手当を導入。薪の小切手は、収入に応じて50ユーロから200ユーロまで。



●ウクライナを橋頭保にしたアメリカの対ロ戦略(2022年12月28日)

「ビッグ・ゲーム」番組のインタビューで、ラブロフ外相は「ウクライナを反ロシアの橋頭堡にする計画が以前から準備されていたことを、米国はもはや隠していない。もう一つの目的は、ヨーロッパを勢力圏から離さないことだ。」と述べた。

<https://twitter.com/i/status/1608108978088849414> 日本語字幕なし

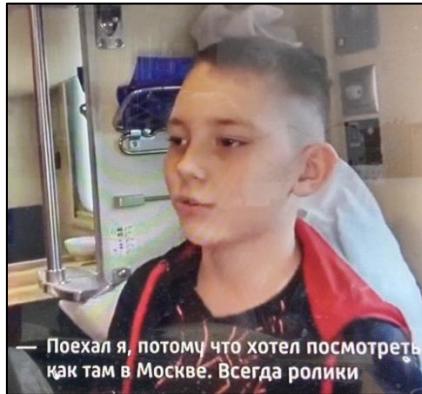


●子どもたちのモスクワでの年越し(2022年12月28日)

ザポロージャ州とケルソン州の数百人の子供達がクレムリンを訪れた。た。年越しの特急が用意され、大人たちが創作活動に必要なものをすべて用意した。美術館や博物館を訪れ新年のパフォーマンスが行われた。

次の便では DNR と LNR の子供達がモスクワに向かい、新年を迎える予定。

<https://twitter.com/i/status/1608112582468206592>



●ロシアとイギリスの比較(2022年12月28日)

欧米のトークショーでイギリスのコメディアンが、ロシアとイギリスの言論を比較した。

「ロシアでは昨年、400 人がソーシャルメディア上の発言で逮捕されています。この国(英国)では何人逮捕されたと思いますか？当ててみてください」

「見当もつきません」

「3,300 人です」

「本当？」

一例として、リバプールに住む少女が、交通事故で失った友人の好きな曲を SNS に投稿したことが挙げられる。歌詞の中には「ニガー」という言葉が含まれていた。この少女は逮捕され、有罪となり、500 時間の社会奉仕活動と 1 年間の夜 8 時から朝 8 時までの外出禁止令が言い渡された」。



●面白い西側欧州諸国風刺動画(2022年12月29日)

※投稿者コメント:こんな動画まで出てくる 2022 年の暮。

<https://twitter.com/i/status/1608126009664241667>

※投稿者コメント:12月物語のパロディみたいですね。ウルスラちゃんがマツユキソウではなく、「制裁を探しに」きて、9 つ目のパッケージを集めないと「ユーロハウス」に入れてもらえないんだそうで。オルバーンは「まだロシアからガスを買わないといけないんで手を汚したくない」と断ります。で、バスケットの中に

制裁バスケットの中にロシアのエネルギー大臣のパスポートが入っているのを見て、「お前気でも狂ったか?」と言っている。あとは、各国の訛があって、よく聞き取れません。



●カナダのトルドー政権のエネルギー政策(2022年12月29日)

※ツイッター弁:脱炭素を名目に暖炉やガス給湯器の使用を禁止するカナダは、狂っている。

カナダのトルドー政権は、欧米裏権力の完全な手先であり、且つウクライナ・ナチスの支援者!



※投稿者コメント:昨日、フォロワーさんに教えて頂いたのだが、

バンクーバーでは薪の暖炉は既設のみ使用が許可され、新築や改築では薪暖炉の設置は禁止だそうだ。

暖炉のみならず去年からは新規ガス給湯の禁止。新築の給湯は電気のみ。現時点で暖房はガス or 電気が選べるが、来年以降は電気一本の可能性も。恐ろしい